

ルテニウム回収事業を開始

資源循環型社会に貢献

サンクト

サンクト(東京都江東区)は、新たにルテニウムのリサイクル事業を開始した。製造工程から発生する端材などから回収・精製し、委託企業に戻すビジネスモデルを構築。昨年から国内メーカーを対象に事業化したもので、白金族ではパラジウムやイリジウムに次いで3品種目となる。近年、触媒や電子・電気関連分野を中心に白金族を含むレアメタル需要が拡大しており、同社では金属リサイクル事業の拡充により資源循環型社会の実現に貢献していく。

白金族では3品種目に

サンクトはレアメタルに超硬工具の製造工程などから発生する汚泥(スラッジ)の再資源化事業や国内販売などを中心に事業を展開している。金や金属スクラップの脱脂工程の受託サービスを行

つている。スラッジの再資源化事業では、正確な計量データを委託加工契約先へ提供し、ユーザーによる適正評価を可能とする独自のビジネスモデルにより他社との差別化を図っており、スラッジの乾燥・焼成を行う静岡県浜松市のグループ会社では年3600ト能力の処理体制を構築。ニッケルやタンクステン、コバルト、モリブデン、タンタルなどのレアメタルを扱っている。新たに開始したルテニウムのリサイクルは、国内で発生するスパッタリングターゲットや触媒のスクラップ、ペースト状のスラッジなどを対象とする。浜松市のプラント



浜松市にある前処理設備

で前処理した後、海外の提携先でメタル分を回収・精製するもので、処理費収入を柱とする受託事業として展開していく計画。

ルテニウムの市場規模は30ト/年程度で、電気接点や触媒などに使われている。価格的にはほかの白金族に比べて低いが、最近では水素製造用の水電解触媒といった新たな用途も開発されている。今後、同社ではリサイクルコストの透明性を軸に顧客開拓に取り組んでいく。

化学工業日報
2021年3月17日掲載